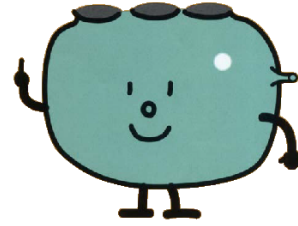


〈浄化槽を設置・お使いされる皆様へ〉

合併処理浄化槽のメリット

下水道並の水処理能力を持つ

- 下水道放流水と同等の水質 (BOD20mg/L以下)
- 高度処理型ではちっ素 (N)、リン (P) も除去可能
- 合流式下水道の豪雨時無処理放流問題も解消



建設・維持管理コストが安い

- 事業費の比較例 (秋田県H町12,100人)

浄化槽 (市町村整備推進事業)	51億9千万円
公共下水道	204億5千万円

- 汚水処理原価比較 (19年度版)

浄化槽 (市町村整備推進事業)	254.4円/m ³
公共下水道 (処理人口1万人未満)	510.0円/m ³

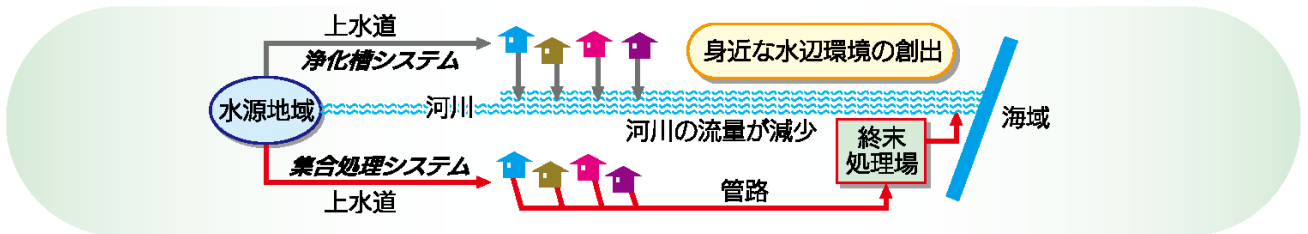
建設期間が短く、投資効果がすぐに発現

- 管路施設が不要で、工事期間が短期間であるため (5人槽で7~10日)、すぐに受益効果が現れる。

高齢化、人口減少に対応可能な施設

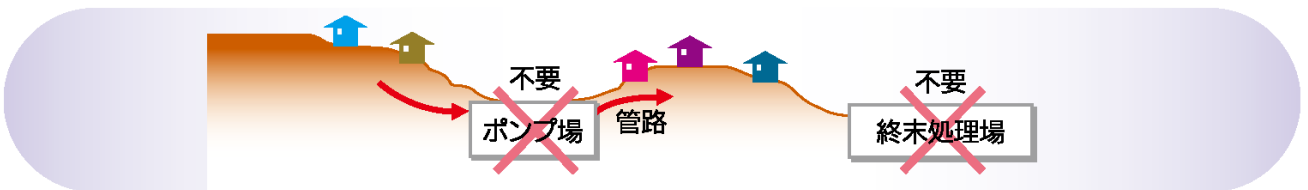
- 過疎地における人口動態変化、今後の高齢社会、離島にも柔軟に対応が可能

家庭で使用した水をその場できれいにして川に返す「地球に優しいシステム」



地勢の影響を受けにくく、人口散在地域で優れた力を発揮

- アップダウンがあってもポンプ場が不要



災害に強く、復旧も迅速

- 阪神淡路大震災では、「下水道は特に管路部分に甚大な被害が生じたため、完全に麻痺したのに対して、浄化槽では宅地内配管及び本体に損傷が認められたが、いずれも被害は軽微で、その修復は容易であった。」と報告されている。

国をはじめ地方自治体の財政がひっ迫している状況の中で、下水道と処理能力を同じくする浄化槽は、公共事業の経済性・効率性の観点からも評価され、期待が一層高まってきている。